

【コピー、転送、回覧など多くの人にお渡しください。各団体各地の活動をお知らせ下さい】



2024-No.1
2024年1月12日

安保破棄中央実行委員会

〒101-0061東京都千代田区神田三崎町2-11-13
TEL03-3264-4764 FAX03-3264-4765

2024年1月11日

防衛大臣
木原 稔 様

辺野古・大浦湾の工事着手に抗議し、中止を求める要請

安保破棄中央実行委員会
事務局長 東森英男
東京都千代田区神田三崎町2-11-13 MMビルII



辺野古の代執行工事に900人が抗議 オール沖縄会議が辺野古で県民集会

辺野古に新基地を造らせないオール沖縄会議は、11日に沖縄防衛局が辺野古・大浦湾で設計変更の代執行による工事に着手したのに対して、12日午前、辺野古の米軍キャンプ・シュワブゲート前で「代執行埋め立てを許さない県民集会」を開きました。

集会には900人以上（主催者発表）が結集し、抗議の声を上げました。

オール沖縄会議の稲嶺進共同代表は、国の代執行による工事着手に「政府は地方自治を尊重する立場などみじんもない」と批判し、「きょうは、これからもみんなで力を合わせて頑張っていこうという気持ちを奮い立たせる日だ」とあいさつ。

玉城デニー知事がメッセージを寄せ、「知事の権限を奪う代執行に至り、工事の着手が強行されたことは極めて乱暴で粗雑な対応がなされたと言わざるを得ない。今こそ力を結集し、辺野古新基地を止めさせましょう」とメッセージを寄せました。

防衛相に抗議し工事の中止を求める 安保中央・東森事務局長が文書提出

安保破棄中央実行委員会の東森英男事務局長と林竜二郎事務局次長は11日、防衛省を訪れ、「辺野古・大浦湾の工事着手に抗議し、中止を求める」木原稔防衛大臣宛の文書を担当官に手渡し、要請しました。（要請書全文は右記参照）

また、安保破棄中央実行委員会は同趣旨の要請を伊藤晋哉沖縄防衛局長に送付しました。（写真＝防衛省で文書を手渡す東森事務局長）

安保破棄中央実行委員会は加盟団体と都道府県実行委員会に対し、抗議・要請の取り組みを呼びかけています。



沖縄防衛局が昨日、沖縄県名護市の大浦湾で埋め立てに向けた工事を始めたことに強く抗議し、中止を求めます。

今回の工事の強行は、この間の沖縄県知事選挙や2019年実施の沖縄県民投票で表明された、新たな基地建設のための埋め立てを拒否するという民意を踏みにじるものであり、許されません。また、憲法で保障された地方自治体の権限を踏みにじる点でも大きな問題があります。

今回代執行される設計変更による工事には重大な問題があります。政府は2014年の工事着手以前から把握していた軟弱地盤の存在を隠ぺいし、既成事実形成のための工事を続け、2020年になって設計変更を申請しました。その軟弱地盤は水深90mにまで広がっていますが、現在の技術では水深70mまでしか改良できません。地質学の専門家からは工事中にも崩落する可能性が指摘されています。そのような状況を踏まえて沖縄県が、「災害防止に配慮しておらず合理性がない」と不承認にしたのは当然です。

政府が「普天間基地の返還」を打ち出してからすでに28年が経過し、政府の試算によっても新基地引き渡しまでに12年かかるとされており、政府の言う「一日も早い普天間基地の危険性除去」は実態を伴っていません。

さらに今回の工事に際して、2013年の埋め立て承認文書に記載されている実施設計についての事前協議や、沖縄県との間で全く話し合いが行なわれないまま工事が行なわれていることも問題です。

以上により、私たちは貴職にたいし下記事項の実現を強く求めます。

1. 辺野古・大浦湾の埋め立てのための工事を中止すること。
2. 普天間基地の閉鎖撤去を求める立場で米国と交渉を行なうこと。
3. 基地問題の解決に向けて沖縄県との話し合いを行なうこと。

以上